# 【ＥＳＤ学習支援活動】
# 奈良市立飛鳥小学校　野外活動　支援報告書

国語教育専修　学部１回生　木多彩菜

**１.実施日**　平成 30 年９月 19 日（水）～20 日（木）※支援は９月 19 日のみ

**２.場所**　奈良市青少年野外活動センター

**３.参加者**　木多彩菜・嶋田智沙恵・仲村幸奈・櫓乃里花（学部生）
条綾香（大学院生）・谷内裕也（教職大学院生）

**４.活動支援内容**

９月 19 日、奈良市青少年野外活動センターで飛鳥小学校の５年生による野外活動の支援を行った。支援内容は、午前はオリエンテーリングでのチェックポイント担当、午後は野外炊飯の補助とキャンプファイヤーのゲームを行うなど、児童たちと共に１日活動した。

今回の野外活動支援で、私は二つのことを学ぶことが出来た。一つ目は児童との距離感、二つ目は教員間の連携である。

まず、一つ目の児童との距離感についてである。今回の支援で私は、児童の活動にどこまで手を差し伸べていいのかということに悩んだ。私たち大学生が手を貸せばすぐにできてしまうことでも、児童たちだけで考えて工夫をしようとすると、倍の時間がかかることもある。しかし、今回、飛鳥小学校の野外活動支援に参加させてもらって、児童たちが仲間と協力して工夫を凝らして、試行錯誤しながら時間をかけて活動することは、児童たちの成長にもつながり、さらにやり終えた後の児童たちは「自分たちだけで最後までできた！」という今までと違った達成感を味わうことが出来るのではないかと感じた。このことから、学校教育において児童が主体となって考えて行動できる環境を作ることで、主体的に行動できる児童が増えるのではないかと考えた。野外活動のような児童たちが自身で考えて行動しなければならない場合は特に、児童に任すことを大切にすべきであると考える。

二つ目の教員間の連携についてである。今回の飛鳥小学校の野外活動支援では施設外でのオリエンテーリングも支援させてもらった。施設の外に出て児童だけで行動するということもあり、いつ、どこを、どの班が通過したのかなどを事細かに先生方が連絡を取り合っている姿を見ることが出来た。オリエンテーリングだけに限らず、プログラムの進行が遅れた時や児童が体調を崩した時も、素早く丁寧に先生方で連絡を取り合っている様子は本当に素晴らしく、自分自身も見習っていきたいと思った。野外活動のような普段の学校生活と違う場では、教員間の連携はいつも以上に求められると考えられるが、普段の学校生活においても教員間の連携があるからこそクラス運営、学年運営、そして学校運営が出来ているのだと思う。今回の支援でこのことに気付くことが出来たのは私にとって大きな学びである。

キャンプファイヤーの様子

今回の野外活動支援は、私にとって初めての野外活動支援であった。慣れないことも多くあり、戸惑ってしまう部分も多々あったが周りにいてくれる学生スタッフ、飛鳥小学校の先生方、そして飛鳥小学校の児童のみんなに助けてもらったことで１日活動し終えることができた。今回の支援で学んだことを、次の野外活動支援や他の活動で活かし、さらに多くのことに気付き、学びを深めていこうと思う。